

事務事業 No./名 称	■サービス部門 まち-06 交通体系整備事業 □支 援 部 門						
主管課	交通計画課(交通政策課)		関連課				
分野名	総合交通						
目標 (目標値)	古都鎌倉の歴史的環境の保全を活かしつつ、交通体系の改善に向けた取組を推進する。						
人口等の データ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備 考		
	人 口	177,204人	177,161人	176,669人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世 帯 数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯			
	事業の対象者数						
運営資源 状 況	決算値(千円)	10,395	16,751	5,115			
	(国・県)		8,333				
	(負担金等)						
	(一般財源)	10,395	8,418	5,115			
	人員配置数	2.6	2.6	3.6			
	人 件 費(千円)	22,156	22,223	32,349			
	協 働 の パートナー	交通事業者 交通管理者	交通事業者 交通管理者	交通事業者 交通管理者			
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	32,551	38,974	37,464			
	市民1人当 りの経費(円)	184	220	212			
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒						
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
鎌倉地域の慢性的な交通渋滞の 緩和に向けた取組	○	目標値	—	—	交通計画検討委員会 の開催	交通計画検討委員会 の開催・市民アン ケートの実施	交通計画検討委員会 の開催・交通需要マネ ジメント施策の実施
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	—	—	シンポジウム及び ワークショップの開催		

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止					
交通体系整備事業	10,395千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	鎌倉地域の慢性的な交通渋滞の緩和に向けて、シンポジウムやワークショップを開催した。 西鎌倉駅舎バリアフリー化工事に伴う周辺施設整備の一環として、西鎌倉駅自転車駐車場の整備を行った。 北鎌倉駅のバリアフリー化に向け、駅周辺の自治町内会や商店会・学校関係者、JR東日本、鎌倉市で協議を重ねて、JR東日本から提示された詳細設計が了承され、平成24年度からの工事着手が可能になった。								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	現在の鎌倉地域地区交通計画において提言されている様々な交通需要マネジメント施策の中には、実施困難な施策や実施までに長期間を要する施策があることから、施策の本格実施を目指した社会実験の検討を行う鎌倉市交通計画検討委員会を開催する必要がある。北鎌倉駅のバリアフリー化に向け、平成23年度前期に北鎌倉駅バリアフリー工事の詳細設計を完成させ、後期には工事着手を目指す。
課題解決のための取組	鎌倉地域の交通渋滞の解消に向けて、問題提起の一環としてシンポジウム「どうする！休日の鎌倉の交通渋滞」の開催や、市民や商工業者の意見等を広く聴くため市民参画による「休日の鎌倉の交通問題」を考えるワークショップを開催した。北鎌倉駅のバリアフリー化に向け、「北鎌倉駅の利便性向上に向けた地元関係者会議」を開催し、JR東日本から提示された詳細設計等が了承され、平成24年度からの工事着手が可能になった。昨年度までは、ノンステップバス導入における補助を指標としていたが、ノンステップバスの普及率が当初の目標に到達しているため、今回より鎌倉地域の慢性的な交通渋滞の緩和に向けた取組を指標とした。
未解決の課題	当初、交通需要マネジメント施策の中には、実施困難な施策や実施までに長期間を要する施策があることから、施策及び社会実験案の検討を行うために鎌倉市交通計画検討委員会を設置する予定であったが、問題提起及び市民や商工業者の意見を広く求めるために、先にシンポジウムやワークショップを開催したため、検討委員会を設置するに至らなかった。当初予定では、平成23年度前期に北鎌倉駅バリアフリー工事の詳細設計を完成させ、後期には工事着手を目指していたが工事着手ができなかった。工事が延期になったことにより、平成24年度に階段やスロープの設置工事、平成25年度にエレベーターの設置工事予定となった。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切○ 要改善△ (評価の視点を参照)	①効率性	○	今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続C:改善・見直しD:統合縮小 E:廃止・休止	※□事業完了
		②妥当性	○		↓ A	課長等名
		③有効性	○			交通計画課長
		④公平性	○			宮崎 隆

(2面) 個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	23年度予算	23年度決算値	個別事業の評価結果
交通体系整備事業	主な個別事業	1030 交通政策専門員謝礼	340	0	■適切 □見直し余地あり
		1030 鎌倉地域地区交通計画策定支援業務委託	7,802	6,983	■適切 □見直し余地あり
		1030 西鎌倉駅駐輪場整備工事請負	3,500	3,412	■適切 □見直し余地あり
		1030 北鎌倉駅駅舎エレベーター設置補助金	16,800	0	■適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり